

富士山周辺における高山植物の生態調査ノート

C. Researcher¹

¹ Research Institute of Environmental Sciences researcher.c@example.com

2025-05-07

Abstract

富士山の標高 2500m 以上の地点における高山植物の生態調査記録。気候変動が高山植物の分布と生存に与える影響を継続的に観察している。本ノートでは、2025 年春期の調査で観察された植物の種類、生育状況、環境要因との相関関係について記録する。特に注目すべき発見として、従来よりも高所でのタカネビランジの生育が確認された。

Keywords: Alpine Plants; Ecology; Mt. Fuji; Climate Change; Biodiversity

調査概要

日時

- 調査期間：2025 年 4 月 15 日～5 月 7 日
- 天候：晴れ時々曇り（気温：-2℃～8℃）

調査地点

- 標高：2500m～3000m
- GPS 座標：35°21' N, 138°43' E

観察された主な植物種

タカネビランジ (*Silene acaulis*)

- 生育地点：標高 2800m 付近
- 生育状況：開花初期
- 特記事項：従来の生育地より約 100m 高所で確認

ミヤマキンポウゲ (*Ranunculus pavoninus*)

- 分布密度：1m²あたり 3～5 株
- 開花状況：つばみ形成期
- 周辺の土壌 pH：5.8～6.2

環境データ

気象条件

- 平均気温：3.5℃
- 相対湿度：65%
- 日照時間：1 日あたり平均 6.2 時間

詳細な観察記録

コマクサ (*Dicentra peregrina*)

- 生育地点：標高 2600m 付近
- 生育数：約 25 株を確認
- 生育環境：
 - 岩場の隙間
 - 南向き斜面
 - 砂礫質の薄い土壌
- 生育状況：
 - 新芽の展開を確認
 - 一部で蕾の形成開始
 - 株の大きさ：直径 10-15cm

イワウメ (*Diapensia lapponica*)

- 分布状況：
 - パッチ状の群落を形成
 - 1 群落あたり 20-30 株
- 生育環境：
 - 風衝地
 - 薄い有機質土壌
 - pH：5.5-6.0
- 特記事項：
 - 前年より群落面積が約 15% 拡大
 - 開花個体の増加傾向

環境変化の影響

積雪の影響

- 残雪期間：前年比 2 週間短縮
- 植生への影響：

1. 展葉時期の早期化
2. 高所への分布拡大
3. 一部種での生育不良

気温変動の影響

- 過去 5 年間との比較：
 1. 年平均気温：0.8℃上昇
 2. 夏季最高気温：2.1℃上昇
 3. 冬季最低気温：1.2℃上昇

保全に関する提言

短期的対策

1. モニタリング地点の増設
2. GPS 追跡による分布域変化の詳細把握
3. 土壌環境の定期的調査

長期的対策

1. 気候変動の影響評価システムの構築
2. 希少種の種子保存
3. 生育地の保護区域指定の検討

次回調査計画

調査項目

- 開花フェノロジーの記録
- 土壌微生物相の分析
- 種子生産量の測定
- 訪花昆虫相の調査

必要機材

- デジタル温湿度計（追加 3 台）
- 土壌サンプリング用具
- ドローン（空撮用）
- GPS ロガー

付記

本調査は環境省の高山帯生態系モニタリング事業の一環として実施された。